

第6章 飯塚市公共交通の課題

前章までの本市の各種公共交通事業の問題点、及び各種意向調査結果等と第2次計画の進捗状況を踏まえ、飯塚市の公共交通における課題を次のとおり整理しました。

【本市の各種公共交通事業の問題点について】

■各種公共交通事業

- 民間公共交通事業
 - ・利用者減少による事業収益の悪化
 - ・運転手不足、運転手の高齢化
 - ・路線バスの事業縮小（減便、廃止）と赤字補填の増加
- 行政による公共交通事業
 - ・公共交通事業関連経費の大幅な増加（事業の効率化）
 - ・効果的な運行・事業運営（利用者増加施策実施）
 - ・利用ニーズへの対応（運行計画や利用方法等）
 - ・安全安心な運行実施
- 民間と行政との事業の重複
 - ・輸送の役割や運行計画（乗降場所、運行ルート）の重複

飯塚市公共交通の課題

課題1

民間公共交通事業の確保、維持

課題2

コミュニティ交通の運行・事業運営の効率化

課題3

民間交通とコミュニティ交通の効果的・効率的な連携

課題4

利用ニーズへの対応

【市民及び事業者の意向調査結果について】

■市民アンケート調査

- 公共交通の満足度：「満足」、「やや満足」と答えた方は1～2割
- 改善してほしい点は、鉄道、民間バスで「運行本数が少ない」、コミュニティ交通で「案内情報が少ない・わかりにくい」、民間タクシーで「運賃が高い」という回答が多くなっている

■コミュニティ交通利用者アンケート調査 （交通機関別改善事項）

- コミュニティバス：「運行ダイヤ」「目的地」
- 予約乗合タクシー：「目的地」「予約方法」
「乗りたい時間に予約できない」
- エリアワゴン：「運行ダイヤ」「目的地」
- 市民アンケートも含め、様々な利用ニーズへの対応が必要

■交通事業者ヒアリング調査

- コロナ禍の影響で利用者数が大幅に減少している事業者が多数
- 民間事業者では、需要の減少と共に乗務員不足及び高齢化が深刻
- コミュニティ交通と民間公共交通との棲み分けについて検討が必要

課題 1. 民間公共交通事業の確保、維持

以前より利用者数が減少傾向にあった各公共交通機関の利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大が追い打ちをかける形で、令和2年度に大幅な減少となりました。翌令和3年度の利用状況は多少改善してはいますが、今後コロナ禍以前のような利用状況には戻らない可能性があります。

交通事業者ヒアリング調査では、特に民間路線バスやタクシー事業者で運転手不足と高齢化問題が深刻となっている状況があり、公共交通の担い手不足の問題がより顕著となっています。

そのため、各公共交通事業者は従来どおりの運行の維持、継続が困難となっており、バス運行本数の減便や路線の廃止、タクシー車両の休車など、事業の縮小化が憂慮されている状況です。

また、本市においては、市内のローカル線全線（5路線）に対して事業費の欠損分の補填を行って、民間路線バス事業を確保・維持している状況です。

このような状況を鑑みて、民間公共交通事業を確保・維持するための方策の検討が必要となっています。

課題 2. コミュニティ交通の運行・事業運営の効率化

本市では、民間公共交通が運行されていない地域や充足していない地域を中心に、コミュニティ交通（コミュニティバス、予約乗合タクシー、路線ワゴン、エリアワゴン）を運行していますが、近年は低調な利用状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響より利用者が減少しています。

また、コミュニティ交通事業については、新たな交通体系を編成し、既存交通機関の見直しや新規交通機関の運行などに取り組んでいますが、その事業費は大きくなっています。

今後もコミュニティ交通事業を未来に渡って継続するには、各コミュニティ交通の運行・利用方法、利用状況に関する詳細な検証や改善を行うこと、周知広報活動の活性化や手法の改善等による利用者の増加に取り組むこと、また事業費の適性化等により、より効率的な運行・事業運営に取り組んでいく必要があります。

課題 3. 民間交通とコミュニティ交通の効果的・効率的な連携

前述のとおり、近年は利用者の減少等により、民間公共交通事業者の事業運営がさらに厳しくなるとともに、本市においても民間公共交通事業に対する赤字補填額や、コミュニティ交通関連事業費が増加するなど、公共交通事業に係る財政負担が大きくなっています。

本市としては、民間の公共交通事業者による運行の確保・維持を支援し、公共交通事業全体を維持するというコミュニティ交通のあり方にもとづいて、公共交通機関がそれぞれの役割分担を行って、お互いの利便性向上や利用者増加に結び付く、より効果的・効率的な連携をする必要があります。

課題 4. 利用ニーズへの対応

公共交通利用者アンケートや市民アンケートの結果によると、コミュニティ交通をご利用になる方の満足度は、不満よりも満足と回答された方が多くなっています。

一方で、コミュニティバスやエリアワゴン・路線ワゴンでは運行ダイヤや案内情報提供方法、予約乗合タクシーでは事前予約方法、運行範囲や目的施設等に要望があるなど、多様な住民ニーズへの対応が求められています。

また、エリアワゴンや予約乗合タクシーでは、住民ニーズに応じるために狭隘な運行経路を運行する必要があるため、安心安全な運行を実施する必要もあります。

今後もより多くの方にご利用いただくために、運行方法や運行ダイヤ、運行ルート等の面で、適宜、見直しや改善を図りながら、お住いの地域のニーズに応じたコミュニティ交通の構築を目指していく必要があります。